

取扱いの趣旨

シスタチンCは、早期の腎機能障害のマーカーとして有用とされているが、末期腎不全、腎不全（透析施行中）に対する算定は、原則として認められない。

支払基金が公表している取扱いの全文

【検査】

《令和6年4月30日》

138 シスタチンCの算定について

○ 取扱い

- ① 次の傷病名に対するD007「30」シスタチンCの算定は、原則として認められる。
 - (1) 腎機能低下（疑い含む。）
 - (2) 慢性腎炎
 - (3) 腎不全の疑い
- ② 次の傷病名に対するD007「30」シスタチンCの算定は、原則として認められない。
 - (1) 末期腎不全
 - (2) 腎不全（透析施行中）

○ 取扱いを作成した根拠等

シスタチンCは、腎臓における糸球体濾過量(GFR)の指標で、GFRの低下に伴い上昇する。血清クレアチニンはGFRが30ml/min 前後まで低下しないと上昇を示さないのに対して、シスタチンCはGFRが70ml/min 前後まで低下した時点で上昇を示すことから、早期の腎機能障害のマーカーとして有用とされている。一方、腎機能低下が高度に進んだ症例においては、測定する意義はないと考えられる。

また、当該検査は、厚生労働省通知※において、「尿素窒素又はクレアチニンにより腎機能低下が疑われた場合に、3月に1回に限り算定できる」旨示されている。

以上のことから、当該検査について、腎機能低下（疑い含む。）、慢性腎炎、腎不全の疑いに対する算定は原則として認められるが、末期腎不全、腎不全（透析施行中）に対する算定は原則として認められないと判断した。

（※）診療報酬の算定方法の一部改正に伴う実施上の留意事項について

グラフの見方

1 棒グラフ（該当レセプトの審査結果）

当該事例の取扱いの対象となる診療行為（医薬品、特定器材）を算定している目視対象レセプト
1万件当たり、取扱いの趣旨に該当するレセプト件数

2 折れ線グラフ

取扱いの趣旨に該当するレセプトのうち、
査定・返戻となった割合

【棒グラフ凡例】 審査の結果

査定	返戻	: 取扱いどおり
請求どおり 職員	請求どおり 審査委員	: 検証が必要

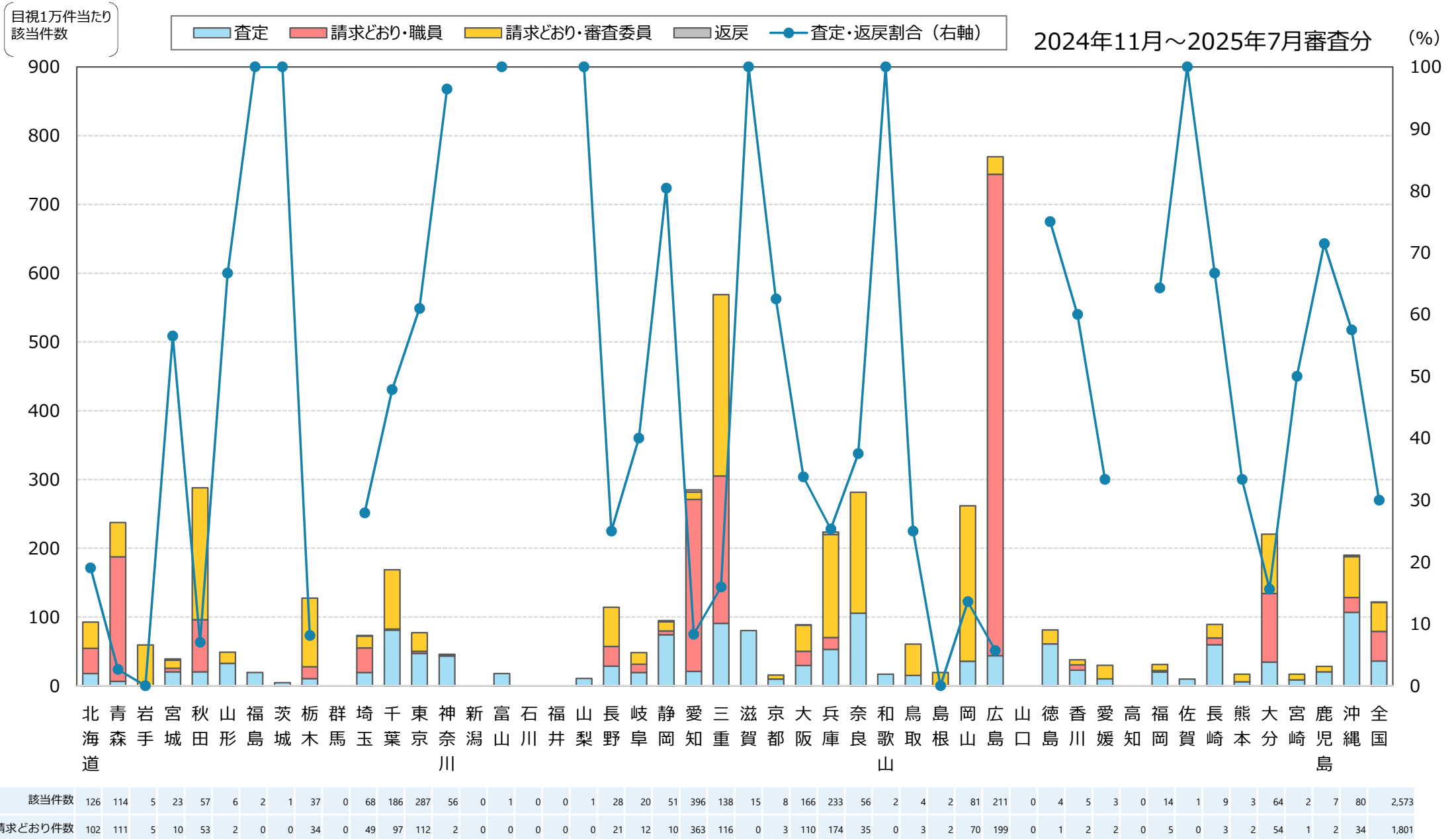
審査結果の概要

- 全国の査定・返戻割合 30.00%
- 検証対象都道府県 28

検証観点	都道府県※	備考
査定・返戻割合が低い	岩手、島根、青森、広島、秋田、栃木、愛知、岡山、大分、三重、北海道、長野、鳥取、兵庫、埼玉、愛媛	査定・返戻割合の低い順
請求どおり・職員	広島、愛知、三重、青森、大分、秋田、北海道、埼玉、長野、沖縄、大阪、兵庫、栃木、岐阜、長崎、香川	対象1万件当たり件数の多い順
請求どおり・審査委員	三重、岡山、秋田、奈良、兵庫、栃木、千葉、大分、沖縄、岩手、長野、青森、鳥取、北海道、大阪、東京	//

※検証対象都道府県が16を超えたため、16都道府県を限度に表記している

該当件数（全国）	【条件】	2,573件
取扱いに基づく審査	査定・返戻の計	772件
検証を必要とする審査	請求どおり	1,801件



【該当件数】 取扱いの趣旨に該当したレセプト件数